## 京都府木津川におけるコクチバスの生息状況

○小西 雅樹・乾 偉大(近畿大学) 川瀬 成吾(大阪府立環境農林水産総合研究所)

【背景と目的】 木津川は三重県伊賀市青山高原を源流とし、京都府を流れ宇治川、桂川と合流して淀川となり大阪湾に注ぐ一級河川である。本河川は下流の淀川に比べて流速が速く、また適度に河川氾濫が起きることから、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚が生息しにくい環境が維持され、ヨドゼゼラやカワヒガイなど希少魚の安定した生息場となっている。しかし、近年、釣り情報系ウェブサイトなどで木津川におけるコクチバスの釣果が紹介されはじめ、2013 年に演者らが行なった調査では、コクチバスが確認された。本種は速い流速や冷水に強く、河川適応性がオオクチバスに比べて高いことから、木津川の生態系に大きな影響を与えることが懸念される。したがって、本種の早急な駆除対策が必要と考えられるが、木津川における本種の定着の有無、分布状況、生態、個体数などの基礎的情報は皆無であり、駆除対策の立案に向けた情報収集が急務である。本報告で、基礎情報として最も重要と考えられる定着の有無(繁殖の確認)および分布状況について述べる。

【材料と方法】 分布調査は、2014年4月から11月までの期間中に月1~2回の頻度で行なった. 調査方法は釣獲、タモ網、投網、目視とし、採集された個体は右胸鰭をDNA標本用に70%エタノールで保存後、10%ホルマリンで固定し近畿大学所蔵標本(KUN-P)として保管した. 繁殖の確認は川を踏査して目視にて行なった.

【結果と考察】 今回の調査では、コクチバスの産卵床は確認できなかった. しかし、6月の調査ではコクチバスの稚魚が多数確認され、本種が木津川で再生産し、定着していることが確認された. 分布調査においては、三重県伊賀市島ヶ原から京都府木津川市山城町にかけて本種が採集されたことから、かなり広範囲でコクチバスが分布していることが分かった. 今後、さらなる拡散が懸念されることから、2015年以降も継続して調査を行なうとともに、駆除対策を進めていく必要がある.